

ETC2.0 車両運行管理支援サービスに関する社会実験の実施



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 牧野 浩志 主任研究官 松田 奈緒子 研究員 大竹 岳 交流研究員 鹿谷 征生

(キーワード) ETC2.0、物流支援、社会実験、賢く使う

3.

賢く使う

1. はじめに

近年、物流事業者は、軽油価格の高止まりやドライバーの高齢化等の多くの課題を抱えている。これらの課題に対して、効率的な運行管理、安全運転支援、燃費改善、労務管理の効率化等が求められている。当研究室では、ITSスポット等から収集するETC2.0プローブデータを活用した物流支援サービスの研究開発を進めている。本稿では、2015年度より実施しているETC2.0車両運行管理支援サービスに関する社会実験について紹介する。

2. 社会実験の概要

本社会実験は、国土交通省が推進している道路を賢く使う取組の1つであるITを活用した賢い物流管理の一環として、車両の運行管理を行う事業者等による運行管理の効率化やドライバーの安全確保等の

サービスの有効性・実現可能性・社会的効果を分析・評価し、円滑な施策展開を図ることを目的として実施する(図)。

ETC2.0では、車両に搭載されたETC2.0車載器と路側機との間の高速・大容量通信により、車両から走行履歴や挙動履歴を含むETC2.0プローブデータを収集することが出来る。本社会実験では、各参加者の車両から収集した個車を特定できるETC2.0プローブデータ(以下、特定プローブデータ)を、実験参加者が管理するシステムへ配信する。実験参加者は、配信された特定プローブデータを加工・分析することにより、荷待ち時間の短縮やドライバーの安全確保等の物流効率化につなげる。

2015年11月に本社会実験の第I期参加者を募集し、民間企業を選定し、実験を開始した。

以下は、実験参加者が想定している提供サービス概要および特定プローブデータの活用の例である。

○走行履歴データを分析することにより、配送ルート・曜日・時間毎の渋滞の発生頻度を把握し、運行計画の見直しに活用

○レンタカーを利用する観光客の立ち寄り地、滞在時間などの動線データを分析し、レンタカーによる観光を充実させる観光情報を観光客の属性等に応じて提供

○危険箇所を特定し、ドライバーの安全教育に活用

3. おわりに

今後、第II期の公募を予定している。また、本サービスについて、評価・分析、制度面の検討を行い実運用につなげていきたい。



図 社会実験の概要